

# 放射線科

専門領域：放射線治療、画像診断学、核医学、  
IVR (interventional Radiology)

## 放射線科専門医への道

Q & A方式で、放射線科専門医への道を説明致します。

### Q1：放射線科専門医になるにはどうしたらいいの？

初期臨床研修終了後、日本医学放射線学会に入会したうえで、日本医学放射線学会が認定した修練機関での研修が必要です。このため、専門医資格を得るための1次試験は卒後5年目、2次試験は卒後7年目となります。1次試験は、画像工学・放射線生物学・法律・放射線治療学・放射線診断学などの幅広い基本的知識が問われます。2次試験は、放射線治療専門医の試験と診断・核医学専門医の試験とに分かれ、希望する専門医資格のどちらかを受験します。

現在、学内には放射線治療専門医取得者が2名、診断・核医学専門医取得者が9名おります。

旭川医科大学放射線科の研修は、卒後3年目は主として旭川医科大学附属病院に勤務し、1年間をかけて放射線治療、核医学（各3ヶ月）、診断・IVR（6ヶ月）の3部門を回ってもらいます。その後、放射線治療を専攻するか、診断・核医学を専攻するかを決めてもらい、それぞれの専攻分野について大学や協力病院などで知識を深めてもらいます。希望者は、よりレベルの高い国内または国外施設への留学も可能です。

### Q2：その他にどんな専門医が取得できるの？

放射線科専門医以外の放射線科関連専門医として、現在学内には、IVR指導医取得者が3名、日本核医学会専門医取得者が4名います。PET核医学認定医制度もスタートしました。その他、超音波専門医、検診マンモグラフィ読影認定医および、放射線腫瘍学会認定医などが取得可能です。さらに、専門医資格ではありませんが、放射線の安全管理で重要な第1種放射線取り扱い主任者の資格取得者も8名おります。

## 後期研修プログラム概要

### 1. 放射線診療各部門における1年間の研修

後期研修1年目は、1年間をかけて放射線治療、核医学（各3ヶ月）、診断・IVR（6ヶ月）の3部門を回ってもらいます。その後、以下に述べる放射線治療を専攻するか、診断・核医学を専攻するかを決めてもらいます。

疾患において、治療方針を決定し、治療計画を行うことができるようになるよう研修をすすめていく予定です。また症状をとるために行う姑息的放射線治療についても理解を深めてもらいたいと考えています。

## (2) その他関連専門医の取得

放射線腫瘍学会認定医は、7年以上の会員歴で所定の条件をみたした場合（放射線治療専門医取得者は5年）、取得可能となります。

## 大学院コース

現在、大学院に進学して博士号の学位取得を目指す希望者に対しては、当科では3つのコースを開講しています。大学院進学希望者は、下記に述べる3コースのうち、いずれかのコースを選択の上、専門医を取得するための研修（放射線治療医養成コース、または診断・核医学専門医養成コース）と並行しながら学位の取得を目指します。

### 1. 放射線病態学特論

本コースでは、放射線が人体に及ぼす影響、すなわち機能的および形態的变化を検討していく。特に、放射線診断および治療に伴う病態変化に着目して研究を進める。

### 2. 臨床腫瘍学特論

本コースでは、腫瘍を対象とした画像診断および治療を検討していく。特に放射線診断および治療に伴う腫瘍の病態生理的变化に着目して研究を進める。

### 3. 病態検査学特論

本コースでは、臓器の病態生理学的変化が画像としてどのように捉えられるかを検討していく。特にCR, CT, MRI, RI画像に着目して研究を進める。

連絡先／担当者 放射線科医局長：山田 有 則

mail address: tyamada@asahikawa-med.ac.jp

診療科ホームページ

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/mc/radiol/asahi.htm>

